

課題解決型学習設計ガイド

中丹教育局では、これまで中丹のまなびXで“PBLの基本的な進めかた”を、中丹のまなびXIで“各教科でPBLに取り組むポイント”等を紹介してきました。



【PBLのすすめ】(中丹のまなびXより)



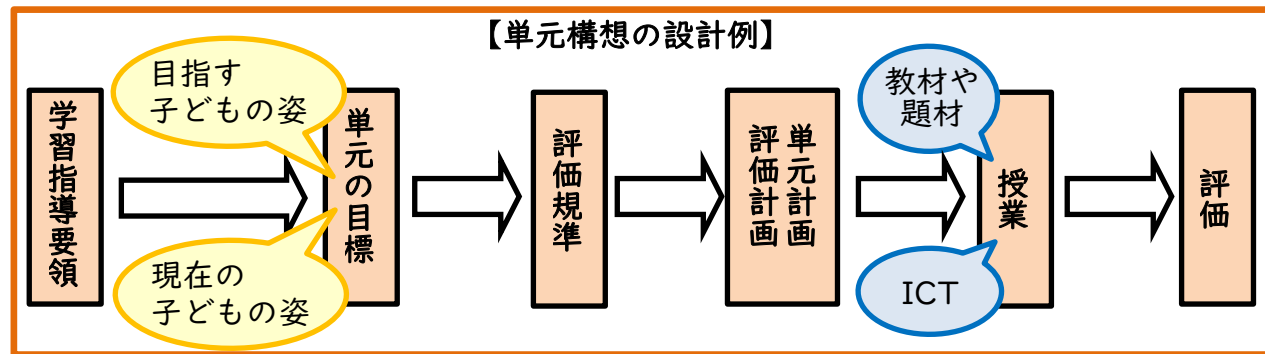
【各教科等でPBLに取り組もう】(中丹のまなびXIより)

今回は、“課題解決型学習の設計”をテーマに、教科や領域においてPBLやPBLの手法を生かした授業実践を効果的に実施するために必要となる、単元(題材)構想や授業設計の手順を紹介します。

単元(題材)構想編

課題解決のプロセスを意識した単元(題材)構想を設計するためのPOINT 3!!

まずは、授業実践の前に単元構想を立てる必要があります。下の【単元構想の設計例】にあるように、目指す子どもの姿と単元の目標を達成するために、教材やICTを上手く活用して1つ1つの授業を組み立てます。



単元構想で意識するPOINTはゴールと評価と振り返りです。

POINT ① ゴール

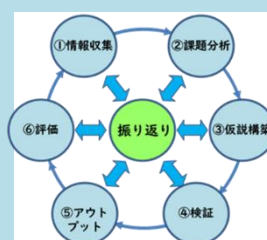
課題解決のプロセスを通して、単元(題材)末に「何ができるようになるか」というゴール(単元目標を達成した子どもの姿)を意識し単元構想を立てることが重要です。またそのゴールを児童生徒と教師が共有し一歩一歩ゴールに近づいていることを実感できるように組み立てましょう。

POINT ② 評価

「指導と評価の一体化」を実現するためには、『学習ガイド(中丹のまなびXI参照)』を活用するなど、教師も児童生徒も評価の見通しを持って単元に取り組めるように工夫することが重要です。特にPBLでは、課題解決の過程や成果が評価に生かせるよう、単元の最初に評価規準を作成し、単元計画と同時に評価計画を設計するようにしましょう。

POINT ③ 振り返り

『中丹のまなびX』でもPBLを深めるポイントとして、課題解決の各プロセスに振り返りを入れることの重要性を示しました。次の課題や、活動、授業に効果的につなぐためにも、振り返りの内容を充実させることが重要です。単元設計の段階で振り返りの時間が十分に確保できるように意識しましょう。



【課題解決の基本的なプロセス】→ (中丹のまなびXより)

～ Project (課題) を Based (基盤) にした Learning (学習) を設計しよう ～

授業実践編

課題解決型の授業を設計するためのSTEP 3!!

単元構想が設計できたら、授業の設計に入ります。次のSTEPを意識してPBLによる授業を設計し、実践してみましょう。

【STEP 1】課題を設定しよう

教師が「教えた」「与える」を、児童生徒が「学びたい」「引き出す」を

まずは、課題を設定することから始めますが、意識して欲しいことは「子ども主体の課題」を設定することです。「子ども主体の課題」とは、子どもが主体的な姿勢を持ち、「自分ごと」になっている課題です。そのためには、教師の「教えたこと」ではなく、子どもの「学びたいこと」を課題として設定し、教師が一方向的に課題を「与える」のではなく、子どもの問いを「引き出し」、学習課題につなげていく必要があります。

そのような課題を設定するためには、以下のような手法が考えられます。

子どもの驚きや疑問から設定する。

振り返りや気づきから設定する。

実体験や出会いから設定する。

また、課題を子どもたちが「自分ごと」とするには、課題提示のタイミングも重要です。単元のねらいを達成するために、教師は意図と計画性を持って、「どんな課題」を、「どのタイミング」で、「どのように提示する」かも含め設定することが重要です。

【STEP 2】課題解決型の授業を実践しよう

次に、実際に授業で課題解決型の授業を実践してみましょう。その際、探究的な学びを授業の中で生み出すために、以下の3つのキーワードを意識してみましょう。

キーワード1: 発問

発問により、思考に広がりや深まりが生まれ、自身の考えを見つめ直すことができます。子どもたちの主体性を引き出し、課題を深め、新たな課題につなげるためにも、発問を計画的・意図的に仕掛けましょう。

キーワード2: 協働

協働により、個々の知識や技能が目的や状況に応じて活用され、活動に主体的・対話的に取り組むことができます。個人で調査したり、研究したりするときも協働の視点を持たせましょう。

キーワード3: 達成感

達成感により、意欲を高く持ち続けることができます。目標(ねらい)を明確に示し、学習や活動のつながりを子どもが常に実感できるように工夫することで、1つ1つの授業でも達成感を感じさせるように意識しましょう。

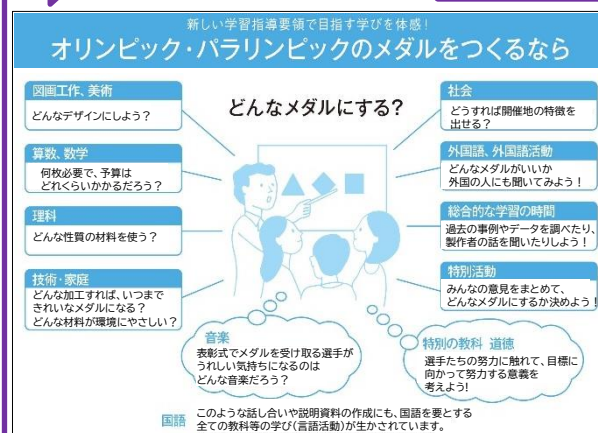
【STEP 3】カリキュラム・マネジメントに取り組もう

学びを相互に関連付ける大切さについて、学習指導要領では以下のように示されています。

身に付けた知識や技能は、当初学んだ場面とは異なる新たな場面や状況で活用されることによって、一層生きて働くようになる。
(小学校・中学校学習指導要領(平成29年告示)総合的な学習の時間編)

PBLは1つの授業や単元、教科内だけで完結せず、左図の【課題例】のように課題を中心に教科等を相互に関連付け、つなぐことで学びが大きく広がります。

各教科等の学びを効果的につなぐために、中心となる教科を決め、課題を共有し、学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組んでみましょう。



【課題例】オリンピック・パラリンピックのメダルをつくるなら (学習指導要領周知リーフレット) 文部科学省(平成31年3月)より抜粋

※PBLとは、Project-Based-Learning(課題解決型学習)のことを指す。